

釧路湿原自然再生協議会

第 26 回 湿原再生小委員会

第 27 回 河川環境再生小委員会

資 料

令和 6 年 2 月 22 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

－ 第 26 回 湿原再生小委員会 －
－ 第 27 回 河川環境再生小委員会 －

日時：令和 6 年 2 月 22 日（木） 13：30～16：30

場所：釧路市観光国際交流センター 3 階研修室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会

合同開催の経緯

2. 議 事

(1) 【湿原再生小委員会】

- 1) 幌呂地区湿原再生事業の状況報告
(国土交通省北海道開発局釧路開発建設部)
- 2) 達古武湖自然再生事業の状況報告
(環境省 釧路自然環境事務所)

(2) 【河川環境再生小委員会】

- 1) スマオロ地区旧川復元事業について
 - 2) 雪裡川自然再生に向けた課題の整理
 - 3) 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について（釧路自然保護協会）
報告） 茅沼地区技術資料に関する報告
- } (国土交通省
北海道開発局釧路開発建設部)
- (国土交通省北海道開発局釧路開発建設部)

(3) 【合同検討】 釧路湿原自然再生での生物と環境の関係

- 1) 魚類
 - ①場の多様性と魚類との関係について（茅沼旧川復元事業より）
 - ②河川の連続性の回復に向けて（釧路自然保護協会より）
- 2) 植物
 - ①達古武湖の水生植物について（達古武湖湿原再生事業より）
 - ②湿原植生と比高の関係について（幌呂地区湿原再生事業より）
 - ③雪裡川樋門の成果について（水循環小委員会より）
 - ④大規模インパクトとの関係について（水循環小委員会より）

3. 閉 会

----- 配 付 資 料 -----

- ・ 第 26 回湿原再生小委員会_第 27 回河川環境再生小委員会 資料 ----- (資料 1)
 - ・ 出席者名簿 ----- (資料 2)
 - ・ 座席表 ----- (資料 3)
 - ・ 湿原再生小委員会説明資料(1/2) 幌呂地区湿原再生について ----- (資料 4)
 - ・ 湿原再生小委員会説明資料(2/2) 達古武湖自然再生について ----- (資料 5)
 - ・ 河川環境再生小委員会資料 (釧路開発建設部治水課) ----- (資料 6)
 - ・ 河川環境再生小委員会資料 (釧路自然保護協会) ----- (資料 7)
 - ・ 合同検討資料----- (資料 8)
-
- ・ 合同開催の経緯について
 - ・ 第 25 回湿原再生小委員会 ニュースレター
 - ・ 第 26 回河川環境再生小委員会 ニュースレター
 - ・ 釧路川茅沼地区の旧川復元【概要版】

釧路湿原自然再生協議会
第 11 期（後期）の協議会委員募集結果

■新規登録【湿原再生、河川環境再生】(3 個人)

区分	氏 名	所 属	湿原 再生	河川環境 再生
個人	川尻 洋志	太平洋総合コンサルタント 株式会社	○	○
個人	工藤 知美	特定非営利法人 EnVision 環境保全事務所	○	○
個人	長谷川 理	特定非営利法人 EnVision 環境保全事務所	○	○

—釧路湿原自然再生協議会—
第26回 湿原再生小委員会 委員名簿

■個人(38名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	荒谷 邦雄	九州大学大学院比較社会文化研究院
2	石岡 透	
3	伊藤 毅	上智大学
4	植村 滋	北方環境研究所名寄分室 主任研究員
5	加藤 ゆき恵	釧路市立博物館
6	金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 教授
7	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
8	川尻 洋志※	太平洋総合コンサルタント株式会社 環境科学部
9	川村 一人	八千代エンジニアリング株式会社釧路営業所
10	神田 房行	北方環境研究所所長(元北海道教育大学副学長)
11	木附 晃実	九州大学共創学部 准教授
12	工藤 知美※	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
13	黒田 寛	
14	坂井 一浩	八千代エンジニアリング株式会社釧路営業所
15	櫻井 一隆	
16	新庄 興	
17	新庄 久志	
18	杉澤 和之	
19	杉澤 拓男	
20	関 基	八千代エンジニアリング株式会社釧路営業所
21	竹中 康進	
22	照井 滋晴	特定非営利活動法人環境把握推進ネットワーク-PEG
23	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
24	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
25	根岸 淳二郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授
26	野本 和宏	釧路市立博物館
27	長谷川 理※	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
28	針生 勤	
29	平間 清	有限会社平間ファーム
30	藤岡 悠一郎	九州大学共創学部 准教授
31	松本 文雄	
32	三上 英敏	北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研窓窓口
33	矢部 和夫	札幌市立大学 名誉教授・専門研究員
34	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究院 講師
35	吉中 厚裕	酪農学園大学 環境共生学類 国際理解学研究室 教授
36	若菜 勇	釧路国際ウェットランドセンター 阿寒湖沼群・マリモ研究室
37	渡部 哲史	九州大学 大学院比較社会文化研究院 准教授
38	渡辺 剛弘	上智大学 国際教養学科 准教授

※印 第11期(R5.11~R6.11)新規登録

■団体(21名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	株式会社日野組	代表取締役 日野 貴
2	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
3	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
7	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
8	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
9	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
10	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 柿沼 孝治
11	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
12	東京農業大学キタサンショウウオ研究会	幹事 居馬 颯汰
13	総合設備株式会社	代表取締役 亀岡 孝
14	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
15	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
16	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
17	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
18	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
19	北海道標茶高等学校	校長 小森 章史
20	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
21	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 鈴木 重充
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(6機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 田村 桂一
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	釧路町	町長 小松 茂
5	標茶町	町長 佐藤 吉彦
6	鶴居村	村長 大石 正行

-釧路湿原自然再生協議会-
第27回 河川環境再生小委員会 委員名簿

■個人 (41名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	荒谷 邦雄	九州大学大学院比較社会文化研究院 教授
2	石岡 透	
3	伊藤 毅	上智大学 国際教養学科 准教授
4	岩崎 理樹	北海道大学大学院工学研究院 准教授
5	折戸 聖	公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社
6	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
7	川尻 洋志※	太平洋総合コンサルタント株式会社 環境科学部
8	川西 亮太	北海道教育大学釧路校 准教授
9	川村 一人	八千代エンジニアリング(株)北海道営業所
10	神田 房行	北方環境研究所所長 (元 北海道教育大学副学長)
11	木附 晃実	九州大学共創学部 准教授
12	久加 朋子	富山県立大学工学部環境社会基盤工学科 流域環境保全学分野 准教授
13	工藤 知美※	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
14	坂井 一浩	八千代エンジニアリング(株)北海道営業所
15	櫻井 一隆	
16	清水 康行	北海学園大学 工学部 特任教授
17	新庄 興	
18	新庄 久志	
19	杉澤 和之	
20	杉澤 拓男	
21	関 基	八千代エンジニアリング(株)北海道営業所
22	竹中 康進	
23	照井 滋晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表
24	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
25	根岸 淳二郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授
26	野本 和宏	釧路市立博物館
27	長谷川 理※	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
28	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授
29	針生 勤	
30	日野 貴	
31	平間 清	(有) 平間ファーム
32	深津 恵太	
33	福田 兼三	
34	福田 貴志	
35	藤岡 悠一郎	九州大学共創学部 准教授
36	松本 文雄	
37	矢吹 哲夫	北星学園大学 経済学部 教授
38	山田 朋人	北海道大学大学院工学研究院 教授
39	吉中 厚裕	酪農学園大学 環境共生学類 国際理解学研究室 教授
40	渡部 哲史	九州大学 大学院比較社会文化研究院 准教授
41	渡辺 剛弘	上智大学 国際教養学科 准教授

※印 第11期(R5.11~R6.11)新規登録

■団体（20名）

（敬称略、五十音順）

No	団体/機関名	代表者名
1	株式会社日野組	代表取締役 日野 貴
2	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
3	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
4	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 近藤 龍洋
5	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
6	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
7	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
8	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 近藤 龍洋
9	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
10	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
11	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 大串 弘哉
12	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 柿沼 孝治
13	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
14	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男
15	道東のイトウを守る会	会長 神田 房行
16	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
17	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
18	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	理事 佐藤 吉人
19	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
20	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤

■オブザーバー（3団体）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 鈴木 重充
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆

■関係行政機関（5機関）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 田村 桂一
2	環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	標茶町	町長 佐藤 吉彦
5	鶴居村	村長 大石 正行

第 25 回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
幌呂地区自然再生について	<ul style="list-style-type: none"> 茅沼地区で実施されている環状剥皮は水位が高い箇所では効果が出ているため、B区域でも排水路のせき止めをあわせて行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> まずはせき止めによる効果をモニタリングした上で、環状剥皮を実施するかを検討していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ヨシは湿原植物ではなく水生植物であり、湿原本来の優占種はスゲ類である。市民参加のヨシ移植の際には、幌呂地区が農地と湿原との緩衝帯としての機能を有していることを伝えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地見学会等のイベントを実施する際には、幌呂地区は湿原と農地との境目に位置しており、人の生活圏と湿原の緩衝帯としての機能を参加者に説明していきたい。
達古武湖自然再生事業について	<ul style="list-style-type: none"> 水質調査の数値が高いか低いかの判断ができない。他の周辺湖沼など比較するデータがあった方が評価しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 水質調査結果を他地域と比較できるように整理する。2007年のシラルトロ湖では全窒素が0.3~4.7mg/L、全リンが0.1~1.0mg/Lであり、達古武湖より高い数値が出ている。
	<ul style="list-style-type: none"> 負荷量を求める際には流量も計測しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 流量観測については、平水時と出水時に流量観測を実施しており、水位-流量の関係式を使用して算出している。
	<ul style="list-style-type: none"> 達古武湖では内部生産や巻き上げ、底質の溶出など様々な栄養塩を作り出すきっかけがあるが、全体のバランスがどうなっているのか一度整理してほしい。土砂を撤去することで改善したということなので、どこの栄養塩が効いているのかを明らかにしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいた意見を基に情報を収集・整理して検討したい。
	<ul style="list-style-type: none"> 水質に囚われ過ぎると事業目標が見えづらくなる。達古武湖のヒシをどう位置付けてどのような対策をしていくかについて具体的に議論したほうが良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの事業結果を踏まえ、実施計画の追記案では「ヒシの制御を継続的に行うとともに、ヒシを含めた水生生物の多様性の回復」を目標に掲げている。

第 26 回河川環境再生小委員会の発言概要と今後の検討方針

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
茅沼地区旧川復元事業について	<ul style="list-style-type: none"> 環状剥皮の実施効果が明らかであるため、本格的な実施への移行を考えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査は継続し、今後の湿原植生への変化を促せるように、幌呂地区で市民参加による普及啓発も含めて展開していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> カワシンジュガイが現況河道で見つかったことについて、現況河道の河床材料が細粒分であればカワシンジュガイがほぼ埋没しているため、調査の際は留意してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> カワシンジュガイの捕獲に際しては、ご指摘いただいた点に留意しながら実施したい。
	<ul style="list-style-type: none"> 在来のキタドジョウという種がいる可能性があるため、ドジョウ全てを外来種として殺処分するのは保留してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に捕獲したドジョウについては標本にしており、分析したうえで今後対応していく。
釧路川支川魚類生息環境の再生事業について	<ul style="list-style-type: none"> イトウの産卵床数が 2021～2022 年に減少しているが、落差工の影響ではなく自然の変化なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 他水系でもこの規模での年変動は見られる。事業箇所は元々産卵床数が少ないため、イトウの個体数回復に向けて人工飼育による稚魚の育成も進めている。

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
新たな自然再生に向けた調査河川について	<ul style="list-style-type: none"> 今後、調査・検討を進める中で、湿原内部も含めて広く状況調査を行い、全体を捉えた対策をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいたご意見を踏まえて、今年度は専門家や地元の農業関係者とのヒアリングを実施している。
	<ul style="list-style-type: none"> 雪裡川は湧水が多く、サケ・マスの自然産卵に適しているため、自然産卵の促進につながるような取り組みができると多様性につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング結果を整理し、今後の進め方について詳細に検討していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 雪裡川はタンチョウのねぐらとなっており、鶴居村の観光資源にもなっている。下流や芦別川にもねぐらがあるため、留意が必要である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 釧路川周辺の湿地ではキタサンショウウオの調査がされていないため、産卵時期を見逃さないように調査を実施してほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 雪裡川の上流はどうなっているのか、上流の状況把握と土砂流入の要因を調べたほうが良い。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 周辺で営農している住民への影響も明確にした上で検討してほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 何年頃の土砂流入量を目指そうとしているのか。また、その時代の湿原流入負荷がどれくらいあったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標についてはこれから検討して設定していきたい。

第26回 湿原再生小委員会 出席者名簿
 第27回 河川環境再生小委員会 出席者名簿

資料 2

計：34名

■個人 (21名)

(敬称略、五十音順)

No	参加方法	氏名	所属	湿原再生	河川再生
1	会場	折戸 聖	公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社		○
2	会場	加藤 ゆき恵	釧路市立博物館	○	
3	会場	川尻 洋志	太平洋総合コンサルタント株式会社 環境科学部	○	○
4	会場	川西 亮太	北海道教育大学釧路校 准教授		○
5	会場	神田 房行	北方環境研究所所長 (元北海道教育大学副学長)	○	○
6	web	工藤 知美	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所	○	○
7	web	黒田 寛		○	
8	web	坂井 一浩	八千代エンジニアリング(株)北海道営業所	○	○
9	web	清水 康行	北海学園大学 工学部 特任教授		○
10	web	新庄 興		○	○
11	会場	新庄 久志		○	○
12	会場	照井 滋晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表	○	○
13	web	根岸 淳二郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授	○	○
14	会場	野本 和宏	釧路市立博物館	○	○
15	web	長谷川 理	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所	○	○
16	会場	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授		○
17	会場	針生 勤		○	○
18	会場	平間 清	(有) 平間ファーム	○	○
19	web	山田 朋人	北海道大学大学院工学研究院 教授		○
20	web	矢部 和夫	札幌市立大学 名誉教授・専門研究員	○	
21	web	渡部 哲史	九州大学	○	○

■団体（10団体）

（敬称略、五十音順）

No		団体/機関名	出席者名	湿原 再生	河川 再生
1	会場	株式会社日野組	日野 彰	○	○
2	会場	釧路国際ウェットランドセンター	佐藤 英樹	○	○
3	会場	釧路自然保護協会	神田 房行	○	○
4	会場	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	芳賀 孝朋	○	○
5	会場	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	倉地 宏樹		○
6	会場	公益財団法人 北海道環境財団	安田 智子	○	○
7	会場	標茶西地区農地・水保全隊	佐久間 三男		○
8	会場	特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ	井上 雅子	○	○
9	会場	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	佐藤 吉人		○
10	web	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	松本 文雄	○	○

■オブザーバー（2団体）

（敬称略）

No		団体/機関名	出席者名	湿原 再生	河川 再生
1	会場	標茶町農業協同組合	鈴木 重充	○	○
2	会場	釧路丹頂農業協同組合	春日 守	○	○

■関係行政機関（3機関）

（敬称略）

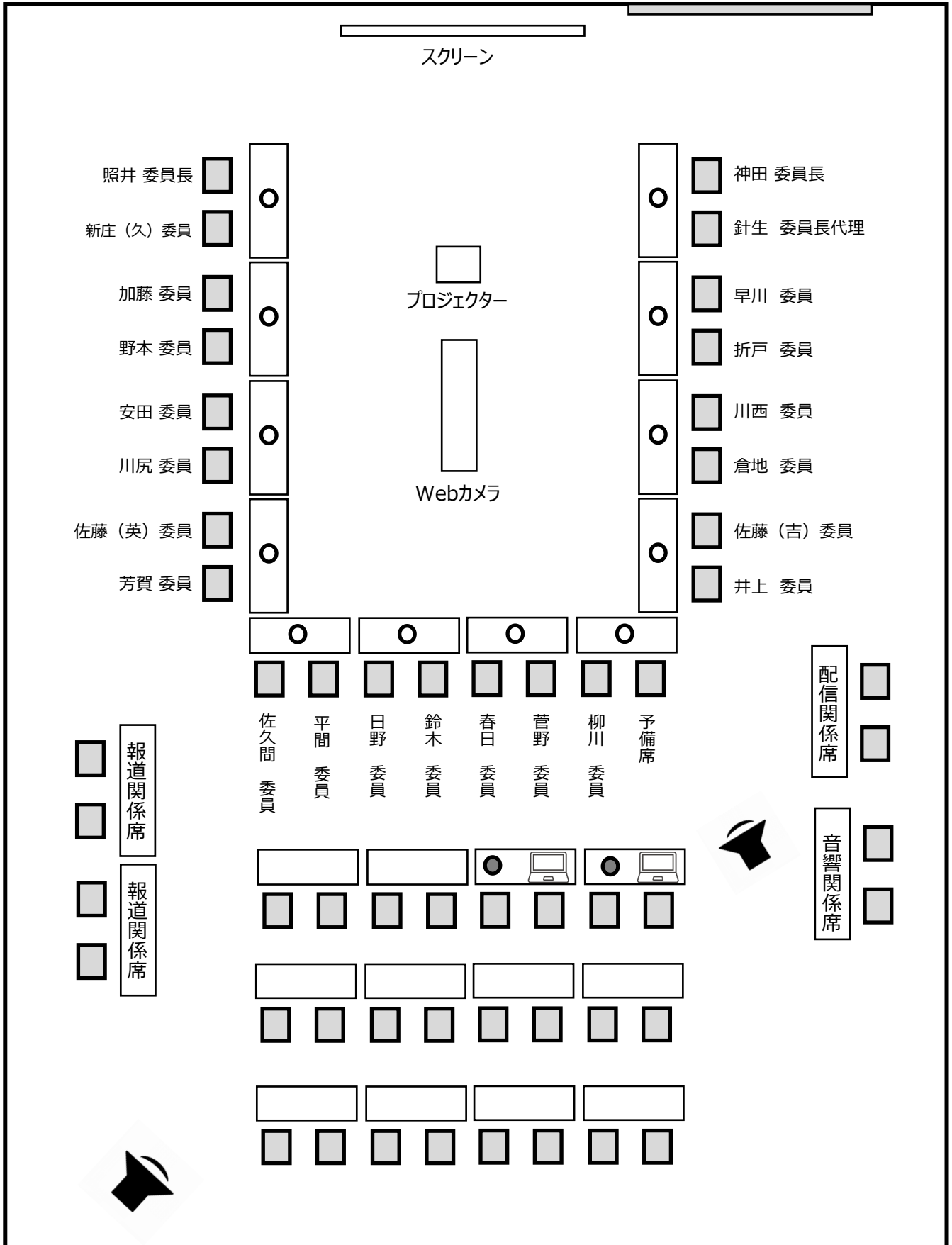
No		団体/機関名	出席者名	湿原 再生	河川 再生
1	会場	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	菅野 法之	○	○
2	会場	環境省釧路自然環境事務所	柳川 智己	○	○
			萱島 拓郎	○	○
3	web	鶴居村	寺島 圭亮	○	○

河川環境再生小委員会 委員 33名／69名

湿原再生小委員会 委員 29名／68名

会場配置図 (釧路市観光国際交流センター 3階研修室)

横断幕



○ 有線マイク ● 無線マイク □ 椅子 PC